

開校記念日の由来

旭川龍谷高等学校の創始者であり、慶誠寺三世住職、故石田^{がくじ}学而先生は幼少の頃から大きな夢をもっておられました。それは将来、教育事業をしたいという壮大な理想でした。

この夢に影響を与えた人物は、御尊父である慶誠寺二世住職、石田^{けいほう}慶封師です。師は早稲田大学文学部を卒業後、本願寺開教使として海外で布教活動をされ、ハワイにおいても開教総長としてホノルルに親鸞聖人の御教えを宣布されました。国内においては大正15年、本願寺派教師養成のため仏教学園を創設され、自ら院長として宗教者の育成に意を注がれました。趣味では俳句を良くし、高浜虚子の直門であり、号を^{うほし}雨圃子として北海道の俳句界に名をとどろかせました。

親鸞聖人の御教えを後世に伝え、「人を育てる」という御尊父である石田^{けいほう}慶封師の志を受け継ぎ、昭和32年、宗祖親鸞聖人700回大遠忌記念事業に合わせ、仏教精神を基調とする旭川龍谷高等学校が設立され翌33年4月、第一期生を迎え、ここに「人柄の龍谷」の歴史が始まりました。

石田^{けいほう}慶封師は昭和27年1月13日に^{せんげ}遷化されましたが、初代石田^{がくじ}学而理事長は昭和35年、御尊父である慶封師の遺徳を偲び、また、ご母堂が愛でられていた花が美しく咲き、季節も良くなる6月の13日を開校記念日に定められました。

私たちは龍谷高校とご縁があったから、仏教に接することができるのではないのでしょうか。生徒・教職員であるから、親鸞聖人の御教えに直接ふれることができるのです。今一度、心静かに縁あるものがしっかりと**合掌**し開校記念日の由来を通じて生かされていることを実感いたしましょう。